

義太夫

新年を迎えて

社団法人義太夫協会会長

景山正隆

義太夫協会会報
第70号

平成12年1月1日
社団法人 義太夫協会発行
〒104-0061 東京都中央区銀座
4-13-11 文明堂3F
TEL (3541)5471
FAX

新年おめでとうございます。

平成十二年、西暦でいえば二〇〇〇年、いよいよ二十世紀最後の歳を迎えました。昨年にも世紀末らしい多事多端の年でした。わが国の景気の回復は思わしくないようで、世相は相変わらず不安定の様相を呈していますが、わが義太夫協会は、どうやら無事に新年を迎えることが出来ました。特筆すべきは、平成十年度の鶴澤友路師に続いて、昨年度には、竹本駒之助師が重要無形文化財保持者の認定を受けられたことでしょうか。義太夫協会の正会員として芸芸の研鑽に努められる女流義太

夫の皆さんにとってこれほど励みになることはないと思います。自信をもって二十一世紀に向けてより一層の修業を積まれることを期待したいと思います。

さて、本年は、義太夫協会が社団法人の認定を受けた昭和四十五年から数えて三十周年に当たります。すでに会報第65号にも書きましたが、社団法人の認可を受けて間もない昭和四十七年の名簿によりますと、当時の正会員は、男性三五名（竹本一九名・竹本以外一六名）、女性六四名、合計九九名となっております。これに対して、平成十一年十一月現在の正会員は、男性二七名（竹本二五名・竹本

以外二名）、女性五五名となっております。これは、二年前に比べて、竹本の男性が一名増えていますが、女性は五名減となっております。他に推薦会員六名、賛助会員二九八名、特別会員二五名、合計四一一名が現在の会員数です。前にも記しましたが、三十年の時の経過と共に若干減少したことは已むを得ないとしても、この数値は、伝統芸能の継承にとってかなり厳しい社会環境にあっても、なお世代交代と共に後継者の育成が着実に図られてきたことを物語っています。ただ義太夫協会の源流である江戸因講が男性のみの団体であったことに鑑み、文楽以外の男性の義太夫人の育成という困難な課題などが残されているとしても、わが協会は自信をもって活動を展開してゆかなければなりません。

如上のような点から考えますと、社団法人認可三十周年に当たる本年は、特に大きな節目とすべき年ではないかと思えます。本年はまた、上野の本牧亭が廃絶されたために、毎月の女流義太夫演奏会の会場を国立劇場演芸場に移して十周年に当たります。さらには、来年は義太夫節の創始者竹本義太夫生誕三百五十年という記念すべき年を迎えます。本年から来年にかけて、地方在住の正会員の方々の演芸場出演も含め、そうした大きな節目の年にふさわしい内容の充実した演奏会や行事の企画を実現して、大いなる発展を期したいと思います。

加賀春 ひなまつり年賀状

あけまして

おめでと〜ございませう。

演芸場の楽屋で、一言ずつ今年の抱負を語ってもらいました。(五十音順)

○自分の健康と付き合いながら、歩いていきたいと願っております。 竹本 朝重

○二〇〇〇年まで生き残った義太夫すばらしいですね。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。 竹本 綾一

○今年は何力勝負!(誰ですか?「今までも」と言っているのは:)) 竹本 越京

○昨年に増して精進してゆきますので、よろしくお願い申し上げます。 竹本 越孝

○二月で満八十八になります。五月八日の越孝の会には私も出ますからまた母娘会になりますね、よろしく願います。今年もがんばりましょう。 竹本 越道

○今年、あと三キロやせたい……。

竹本 越若

気合いを入れてがんばろう



竹本 駒輝

○マイペースで、一日、一日を大切に過ごしていきたいと思えます。 竹本駒之助

○健康に気をつけて、常に新鮮な心で芸にかかいていきたいと思えます。竹本土佐恵

○二〇〇〇年という大きな節目の年、義太夫協会にとっても期待の年となりますことを願いつつ稽古に精進したいと存じます。 竹本土佐子

○地道に頑張りますので、よろしく願います。 竹本春之助

○生かして頂いて、ありがたいと思う毎日です。 竹本 素八

○まず、体力!ベンチプレス7キロに挑戦するか!(トホホ) 竹本 素丸

○牛の歩みですが、二十一世紀に向かって一歩一歩頑張っていきたいと思えます。 竹本佳之助

○基本をしっかりすることを心がけたいと思えます。 鶴澤 寛也

○エッ?トーフじゃなくて、ホーフですな!
鶴澤 駒治



鶴澤寿々香

○厳しく、激しく、ねばり強く、慎み深く、そして楽しく。 鶴澤津賀榮

○一つ、一つ、ていねいに! 鶴澤津賀寿

○お客様に名前を覚えて頂けるようになりたいです。 鶴澤 賀寿

○音に心を、心に夢を"余裕を持って物事にあたれる様少しづつ体力増進を心がけたいです。 鶴澤 紋榮

○今年も精進してまいります。 鶴澤 弥栄

○あせらず努力いたしますので、どうぞ長い目で見守り下さいませ。 鶴澤 弥吉

○時は刻々新しく移り変わって行く中に義太夫節の命は不変。生きて居るかぎり勉強を続けて行きたいと思えます。 豊澤 幸治

○公私共に充実する様、頑張ります。 野澤喜恵博

第三期「じよぎ」報告

上野広小路亭公演

運営委員会

平成九年に発足した「じよぎ」もお蔭様で、三年たちました。チラシから何からすべて手作りで始めたこの会ですが、今更ながら皆の一致協力なくしては出来ない事を痛感しています。

昨年度は、自分達の会であるという意識をより深める為、出演者以外の役割分担も細かく決め、又お客様の動員にも力を入れる様に呼びかけました。NHK(いっと6けん)に取り上げて頂いたり、皆の努力もあってか目標を上回る多くの方に来て頂き一同うれしい悲鳴を上げています。

しかし、若手の修業の場「道場」として出発したこの会も、お客様に満足して頂ける「公演」となるまでには、課題がたくさんあると思います。一年く、「じよぎ」が成長していく様、皆で気持ちを一つにして頑張ってもらいたいと思います。

今後共あたたく見守って頂きたく、よろしくお願ひ申し上げます。

(Y)



客席から



義太夫教室出身で、女流義太夫鑑賞歴六年になるお客様(匿名希望)から「会報七十回記念号に寄せて」にご寄稿頂きました。一部を紹介させて頂きます。

義太夫節は人を感動させることができるすごい芸だと思えます。だからこそ三百年以上絶えることなく伝えられて来たのでしょう。女流義太夫も明治から戦前にかけて、娘義太夫として大変人気があったと聞いています。女流義太夫の方々は、文楽の先生に付いて修業されているそうで、浄瑠璃も文楽と同じような風になっているようです。私も時々文楽を見ますが、人形の動きと大夫・三味線の演奏が合わさって人々の感動を呼び起こしています。素浄瑠璃は視覚に訴える人形がありませんから、人形浄瑠璃とは違う、聞かせるための努力をしなければならないと、多くの観客は楽しめません。古典を昔のまま伝えて行くのは大切なことだと思えます。しかし、娯楽の多い現代に生きている人々に聞かせる芸も生きて変わって欲しいと思えます。女流義太夫は女性の演じる芸ですから、無理に男っぽくせず、女らしさを強調するほうが魅力が出ると思えます。今の女義が嫌いなわけではありませんが、いつ行ってもだいたい観客の数が数えられるくらいなので、もっとお客様を呼ぶ芸能になっていただきたいと願っています。

一 義会報告

竹本駒之助副会長

重要無形文化財(人間国宝)認定を記念して、七月七日にパーティが催されました。

○ ホテルニューオータニ
トップザタワー



吉川英史名誉会長

インタビュー

—お達者ですかスペシャル—

今回は社団法人となって三十年の記念という事で、法人化に大変ご尽力なされた吉川英史名誉会長に当時の苦勞譚などをお話し頂きました。

協会が法人化するというのは、やはり社会的に認められるという事だったんでしょうか？

吉 まあ、そうですね。言い方を変えれば、法人化したほうが、やはり強いですからね。別に法人にする必要はないじゃないかという考えもありますが、法人にならなくてもその芸能が盛んになればよいのですが、法人にしないと、その芸能の必要性が低いので法人にしないとと思われる懸念があるわけです。

私が入ったときには、もうすでに法人になっていましたので、どんなご苦勞があったのか、よく知らないのですが…

吉 僕が文部省に行ったりね、そういう事に関心が強い国会議員に、今はこういう状態

で、どうしてもこういう事が必要なんだというのを話しに出かけるとかね、そういう事をしょっちゅうやってたわけです。勿論手弁当で、それもゆっくりなんか食べていられないですから、掻き込むように、あるいは手弁当もなしで、そういうところへ行っている必要性を説いていました。

具体的には、どのようなお話しをなされたんですか？

吉 話をする相手によって対応を変えるわけですが、一般的に言って、洋楽に比べて邦楽は応援をしてもらっていない、大学でも邦楽のほうが予算が少ない、とかいう事を訴えるんです。そのように比較して言ったほうがわかりやすいですね。そうすると向こうも同情してくれるわけです。中には門前払い、というような事もありましたけど。

当時は邦楽を軽くみるというか、別に邦楽をいじめてやろうとか、そういう事ではないんですが、考え方が違うんですね。始めから「音楽」という範疇に邦楽を入れない考え方があって、邦楽をやる人の側には不満がたまっていたわけです。

現在私たちが国立劇場の演芸場で毎月の演奏会を開催できるのも、先生のご尽力によるところが多いわけですね。本日に今日はお忙しい中、貴重なお話を有難

うございました。



平成5年11月3日 顕彰状受領祝賀会(奥様と)

「吉川英史(きっかわえいし)」

明治42年 2月13日広島県神辺町に生まれる。
昭和8年 東京帝国大学文学部美学美術史料
卒。

昭和47年 NHK放送文化賞。

同年 紫綬褒章。

昭和54年 勲三等瑞宝章

平成5年 文化功労者

平成6年 広島県神辺町名誉町民

武蔵野音楽大学・東京芸術大学教授。東京大学・お茶の水女子大学・NHK邦楽技能者育成会・正派音楽院ほか講師。NHKの邦楽解説を長年担当。『季刊邦楽』主幹。社団法人東洋音楽学会会長、社団法人義太夫協会会長、日本琵琶楽協会会長、財団法人宮城道雄記念館理事長・館長、文化庁芸術祭執行委員会委員長などを歴任。

(邦楽社「謝々天庵主人回想録」より)

△会員招待方法が変わります。

平成十二年度の会費を納入いただいた方に一年間有効の会員カードを発行いたします。演芸場公演では受付で入場券(賛助会員三枚、特別会員五枚)をお引き換えするとき、このカードにパンチを入れます。年度内にそれ以上入場いただく場合は学生料金に割引いたします。



会報が、この新年号をもちまして、第七十号を数える事となりました。また今年、義太夫協会が、社団法人化されてから三十年目という記念の年にあたり、「今迄の会報をふりかえてみよう」ということになりました。バックナンバーを探してみると、社団法人以前の会報が残っていましたので、三十年少し前の東京の義太夫界を、かいま見てみようと思います。

※掲載した文章は、各号に既に掲載されたものを一部割愛して使わせて頂きました。

◎昭和32年9月16日

義太夫協会設立総会

これ以前 明治31年因講発足。

のち因会と改め、

戦後 因協会となる。

11月5日

「義太夫協会々報」第一号発行

←当時の会報から(第11号より..昭和35年)

協会会員現況

名誉役員(五十音順、敬称略)

名誉会長 河竹繁俊

顧問 安藤鶴夫 吉川英史 田辺尚雄

坪内士行 町田嘉章

三宅周太郎 吉田幸三郎

会員

正会員 豊沢松太郎会長以下 八十三名

特別会員 田口辰寿副会長以下 一四八名

総計 二二一名

○昭和三十二年発足から三年の間(昭和三十五年まで)に十一号も発刊されたようです。

(第11号より)

義太夫協会の使命

河竹 繁俊

その第一は、古典音楽の保存ということにあります。皆さんもご承知と思いますが、この十年來無形文化財ということががやかましく言われるようになっております。義太夫はその無形文化財の邦楽中の最たるもので、文楽

人形浄瑠璃は集団として、また豊竹山城少掾や綱太夫や故鶴沢清六などは個人として文化財(人間国宝)に指定されているに徴しても明らかです。つまり江戸時代文化をよく反映してしかも芸術的な表現形態を保っているからであります。ですから、このけっこうな文化財を修練して保存することは、文化国民の責務であるばかりでなく、新時代の音楽をつくりだすためにも役立つはずであります。

また第二にあげられることは、趣擬教養のために貢献するものだといいことでもあります。いったい、個人々々の生活を豊かに美しくし、味わいの深いものにするために、音楽というものが非常にたいせつなことは、今日申すまでもありませんが、それには、音楽としても民族的であり美しくつりつぱで、いわゆる人情の機微をうがつころの多い義太夫が先ずえらばれていいわけです。そして、あの各作品中にえがかれていく人間なり生活なりは、封建時代のものにはちがひありませんが、いつの世にも変らない、不易の人間生活、義理と人情との悲しさ嬉しさというものを、よくつかまえてうまく書きあらわしてあるではありませんか。私もは義太夫によって、祖先の生活を知ると同時に、人間そのものについて教えられるところが多いのであります。

以上、かんたんではありますから、わが義太夫協会の持つ使命も意義もおのずから明白になったかと存じます。要するに、義太夫には古典の伝統保存と趣味教養の面において、重大意義の存することを会員その他の方々も

自覚していただいて、ますます隆昌におもむきますよう希望いたします。

(第12号より…昭和36年)

義太夫協会の趣旨

義太夫は亡びるか？

「義太夫は亡びる」ということばは、明治以来絶えず繰返されて来たが、斯道は依然として続いている。そこで「心配するほどのことではない」とか、中には「日本の続く限り義太夫はなくなるならない」などという声もある。果してそうだろうか。

今や昔と違ってスピード時代、更には、嘗ては想像もなかった原子力時代というものになりかけている。「亡びるといわれながらも亡びなかったではないか」などという勿れ、大正や昭和初年とは異り、世の中は万事急速に変わりつつある。

なるほど義太夫は、我々の生きているうちには亡びないであろう。しかし現状から推して、誰が明日を保証出来るようか。どうも種々の内的、外的現象は、義太夫を真底から愛する我々にとって喜ばしくないことばかりである。では諦めなくてはならぬかというところ、そうはいえない。これまで続いた底力、即ち斯道の芸術性を立派に盛り立てればよい。努力がムダにならないところの可能性は大いにある。だが手を拱いていたのでは何にもならない。先ず行動しなければならぬ。その第一歩がこの組織改革である。観念的に見れば機構は不十分でも行動すればよいはずだが、物事には

すべて契機、キッカケという跳躍台が必要である。「新しい酒は新しい革袋に盛れ」という諺のあるように、充分に動き易い新しい組織の下で、清新な気持を以て、目的のために活動したい。

因協会は崩壊するのではない。自主的な発展の解消である。そうして旧因協会を母体とする新機軸に移行し、斯道を真に愛する従来の部外の人々とも力を併せて、この古典芸術を守り、いかなる時代にも生きのびられるようにして行きたい。

(註) 因みに今回の改組の上での実践面に於ては決してこの古典芸術の在来の真の姿を安易に崩すものではない。正統の芸の姿は飽くまで守り続けなければならぬ。ただ、時代に從って人は刻々と変ってゆくのに、義太夫に対する態度が昔の通りでは、また時には昔の悪い面を惰性的に承けつぐのでは、到底生き続けられないのであるから、その扱い方を慎重に考えてゆかねばならぬのである。

(第11号より)

義太夫を現代に生かすために

吉川 英 史

悪貨は良貨を駆逐する。現代の義太夫の不振はラジオやテレビの俗悪番組のハンランのためかも知れない。そのようなものと競争して、身を落としてまで義太夫を盛んにする必要はないだろうが、その芸術性を保ちながら盛んにする方法はないものか。

三曲界や長唄界では、昔風のオサライ会の外に、本当に芸術的技量を鑑賞するための、

リサイタルという形の演奏会が非常に多くなったが、義太夫界では少ない。また、本格的に一段丸々の演奏も結構であるが、能楽の小謡・舞囃子・半能というような省略演出法も研究する必要がある。この意味でサワリを軽蔑する玄人趣味は再検討を要する。現在の義太夫小唄や義太夫舞踊も大いに賛成であるが、さらに工夫を要する。

古典だけにすぎる芸術に発展はない。三曲や小唄の隆盛と常磐津や清元の沈滞はその辺にも原因がある。義太夫は節を聞かせる音楽でなく、義理人情で泣かせるものだという。世の中が変われば義理人情も変わる。義太夫不振の原因はここにもあろう。古い義理人情に共鳴できなくなった現代人をも感動させる新しい義理人情(人間精神の複雑な関係を描き出す作品が必要である。現代はスリラーの時代であるというが、寺子屋の首実験をはじめ義太夫はスリラー物の元祖ではないか。現代の求める笑もエロも、すでに義太夫の古典の中にある。義太夫には現代に生きる素質がある。昭和の義太夫作品は作れば作れぬことではない。義太夫協会の一段の奮闘を祈る。



(第11号より)

「素人」と「くろうと」

本 田 玉 宝

素人と玄人の相違は勝負の世界にては判然とわかるものですが、芸事に於いては自分天狗が手伝って、ほんとに素人とクロウトの區別がわからないから玄人は余程其のへだたりを大きくしなければならぬと思われます。

義太夫の隆盛を極めた時代は商人は一座を組織して殆んど一年中休みなく語って興行して居たもので、毎日真剣勝負によって技を磨いたものですが、今日の時世ではそうもゆかなくなつた事は若手のクロウトの芸の向上しえない事を同情申し上げる次第です。素人の芸に於いては毎日、又は月十回位の稽古に平均三回高座出演に依つて芸の向上を楽しんで居るものですが、普通素人は月平均一回がよいところではないでしょうか。現在の師匠連の修業時はほんとに血のにじむ努力が払われて居り、然も毎日連中さんに稽古をつけることによつて、復習と研究が積まれ、しらすくゝの内に益々芸は円熟して来るのに引かへ、若手修業中の人々は修業する道場がないためそれが出来なくてお気の毒に存じます。私共素人は月二回程の催しのほかに種々の大会に技を磨き、審査会にて仕合するといふように、或程度恵まれて居ります。私は若手修業者の芸道発展の爲めに私共の月並会は勿論、大会にてもなるべく出演したら修業に役立つのではないかと思ひます。其の意欲さへあれば、私共素人の会合に便宜を与うる様話しを致し

度く思います。

沈滞する義太夫界に一人の名人上手が出ることによりて、昔の隆盛を取りもどすことはたやすいことと思はれます。(本会理事)

○昭和三十七年には、大日本素義会が発足され、また若手ばかりの素義会もあつたようです。

(第13号より) 昭和38年

東 京 嫩 会 (苦手勉強会)

岡 田 蝶 花 形

6月12日素晴らしいホールの第一証券に聴く。和田平十郎の日吉三、苦しき息を這いよつて少しも苦しからずさらさらとやつてのけた。

菅野昌行の寺子屋、聴いて居て変な素義具、イヤ味なし。次の安田洋八の陣屋ともよかつた。陣屋部分的に、七里歩み十里歩み百里余りの道をのどり、工夫あつて然るべきを注文する方が無理か。竹内久は川口子太郎の再来かと思はれる程。細い声で息が似ていて嬉しかった。出の入相はあでなく「いりやい」である。奥へ進んだので出来るかと他人乍らハラハラして居たのに、手紙の件少しのソツなくよくやつた。菅野光雄の太十、態度実によく、詞ノリもよい。茲をセンドはテツ。行き方知らずが正、生死はセウジである。切の野崎の掛合、洋八のお染、平十郎のお光、久の久作何れも光つた。日置の久松一段と声が落ちた。絃の諸師何れも結構。これ丈の教導御苦勞乍ら只この上は諸君をおだてて素義の天

狗にさすとか、太夫号をやつて本職にさすとかはしないで欲しい。女人の出演なかつたを惜しむ。婦りのエレベーターの中で皆賞めて、その原因は教養にあると一致した。

○この頃、文楽の法人化が問題になってます。

(第13号より)

「文楽」の法人化問題について

会員皆様も御承知の如く「文楽」の問題も三宅周太郎氏始め関係識者の力で或る程度迄具体化してきた。まだ細目決定には間がある筈だが、ともかく独り文楽のみならず、我々にも直接間接に関係を有する問題なので注目していきたい。もとより最善の方法を採られる事を望むが、この際文楽人の一大奮起を促すものである。

○昭和四十二年には国立劇場が開場され、その前年は協会改組十周年記念の公演、また四十三年には国立劇場で、因講から教えて満七十年記念の芸術祭参加大公演会が開催されました。

◎昭和45年6月16日 社団法人認可

7月9日 設立総会

◎昭和46年5月10日

現在の「義太夫協会々報」創刊号が発刊

○ほんの一部ではありますが、振り返つてみると三十年の歴史を感じるとともに、常に現在進行形のテーマが浮かんでくるようです。

《事務所の変遷》

会報の歴史をひもといて来ましたが、この三十年の間に協会の事務所も、諸事情に伴い移転してきました。その変遷を振り返ってみましょう。

○法人化以前

江東区清澄町の当時の会長（豊澤松太郎師）の自宅。

○法人化に伴い、一時的に台東区上野二丁目あの本牧亭です。

昭和四十六年

東銀座の平凡出版社（現マガジンハウス）ビルの並び、真光ビル2F

昭和四十九年

新橋演舞場別館内

その後演舞場改築に伴い、新橋寄りの松本ビルに移転。天窓のある明るい事務所でした。

昭和五十九年

新橋演舞場地下2階に移転

演舞場の中で迷っている人がいれば、その人は義太夫協会を探していると言われる位、迷路のような廊下を歩いていかななくてはなりませんでした。

平成七年

松竹会館内に移転

天井が高くて寒々とした所でした。

平成十年

新しい文明堂ビルの3階

見晴らしは最高です……が、一言で言

うと出窓のような部屋で、L字型の通路のよう……狭いので今迄の大きな書棚類が入らなくなりました。



これからこの予定

*第五回駒之助の会

一月九日(日) 紀尾井ホール

二時開演

*義太夫教室OB演奏会

二月二十六日(土) 日本橋劇場

十二時開演(予定)

*東京都邦楽演奏会

三月七日(火) 国立劇場小劇場

*「じよぎ」今年の予定

三月一日(水) 二日(木)

五月一日(月) 二日(火)

七月一日(土) 二日(日)

九月一日(金) 二日(土)

十一月一日(水) 二日(木)

(いずれも六時半開演)

国立演芸場
女流義太夫演奏会

年 月 日	曜	上演時間
12年1月23日	日	*2時
2月21日	月	6時30分
3月23日	木	6時30分
4月21日	金	6時30分
5月24日	水	6時30分
6月22日	木	6時30分
7月21日	金	6時30分
8月22日	火	6時30分
9月22日	金	6時30分
10月24日	火	6時30分
11月24日	金	6時30分
12月22日	金	6時30分
13年1月20日	土	6時30分
2月23日	金	6時30分
3月22日	木	6時30分

月により日程が違いますのでご注意ください。

*印は昼間の公演です。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

協会の動き

'99年6月より
'99年12月まで

6月3日	編集部会	於松竹第三会議室	7月26日	邦楽会議	於芸団協会議室	9月24日	女流義太夫演奏会「生写朝顔話」
6月4日	常務理事会	於松竹第三会議室	8月1日	一日三味線体験教室		9月24日	「夏祭浪花鑑」 於国立演芸場
6月5日	「ひこばえ5」公演		8月2日	一日義太夫体験教室		9月29日	東京都平成11年度補助金決定通知
6日	於お江戸日本橋亭(二日間)		8月4日	公演部会	於松竹第三会議室	10月2日	芸術文化振興基金平成12年度説明会
6月10日	車人形出演	於八王子由井中学校	8月12日	編集部会	於松竹第三会議室	10月12日	「第四回長月会」於上野広小路亭
6月12日	理事会	於松竹大会議室	8月22日	芸術文化振興基金平成11年度助成金決定通知		10月14日	「第四回長月会」於上野広小路亭
	定例総会	於松竹大会議室	8月28日	女流義太夫演奏会「若手勉強会」	於国立演芸場	10月22日	編集部会
6月14日	芸団協総会	於東京會館	9月1日	公演部会	於国立劇場食堂	10月27日	素義会
6月22日	女流義太夫演奏会「絵本太功記」	於国立演芸場	9月2日	「じよぎ」公演	於上野広小路亭(二日間)	10月29日	編集部会
6月23日	編集部会	於松竹第三会議室	9月4日	「じよぎ」公演	於上野広小路亭(二日間)	11月1日	車人形出演
6月24日	芸術文化振興基金申請書提出		9月6日	車人形「松姫哀愁松」初演	於八王子市民ホール	11月4日	車人形出演
7月1日	「じよぎ」公演		9月16日	義太夫教室第52期中級開講	於演舞場スペースアルファ	11月6日	車人形出演
7月2日	於上野広小路亭(二日間)		9月21日	「第二回巴の会」	於なかの芸術小劇場	11月8日	車人形出演
7月5日	広報担当者の集い		9月22日	公演部会	於国立劇場食堂	11月9日	邦楽会議
7月15日	会報69号発行	於芸団協会議室	9月16日	「第二回巴の会」	於なかの芸術小劇場	11月13日	「昼の義太夫サロン」
7月22日	著作権法一〇〇年記念式典・記念講演会	於国立劇場	9月21日	「じよぎ」公演	於上野広小路亭(二日間)	11月16日	「レビューじよるり」
7月23日	女流義太夫演奏会「桂川連理柵」	於国立演芸場	9月22日	車人形出演	於八王子第五中学校	11月24日	於演舞場スペースアルファ
				邦楽連合会	於サロンドサンク		普及部会
				正会員資格審査	於サロンドサンク		於松竹第三会議室
							女流義太夫演奏会「仮名手本忠臣蔵」
							於国立演芸場

(10頁下段につづく)

新入会員御紹介(五十音順・敬省略)



住所(住居表示)等変更



(9頁下段より)

12月2日 車人形出演

於八王子ひよどり山中学校
12月21日 女流義太夫演奏会「仮名手本忠臣蔵」
於国立演芸場

〈寄付〉

大日本素義会様 三万円

〈寄贈〉

館野善二様 「長生殿」テープ 1本

豊澤時若様 三味線 2挺 駒箱 2個

象牙撥 1挺 胴板 3枚

駒 10個 ネジ 12本

〈事務局から〉

○昨年十一月から事務局職員として柴田良子さんが勤務しております。

すでに戦力として活躍しています。

○義太夫協会のホームページが開設されました。
<http://www.ne.jp/asahi/gidayu/joururi/>

【編集後記】

○三十年の節目に当り、先輩方の熱き思いに、感慨ひとしお。次の三十年につないでいきたい。(T)

○今回は編集長のごよしい影響力を今更ながら思い知らされました。ゴホン。(K2)

○明るい編集長を中心にエンジン全開中!!

○さあ今年はドースル、ドースル、横浜ベイスターズ! (Y&新K)

○さあ今年はドースル、ドースル、横浜ベイスターズ! (S)